

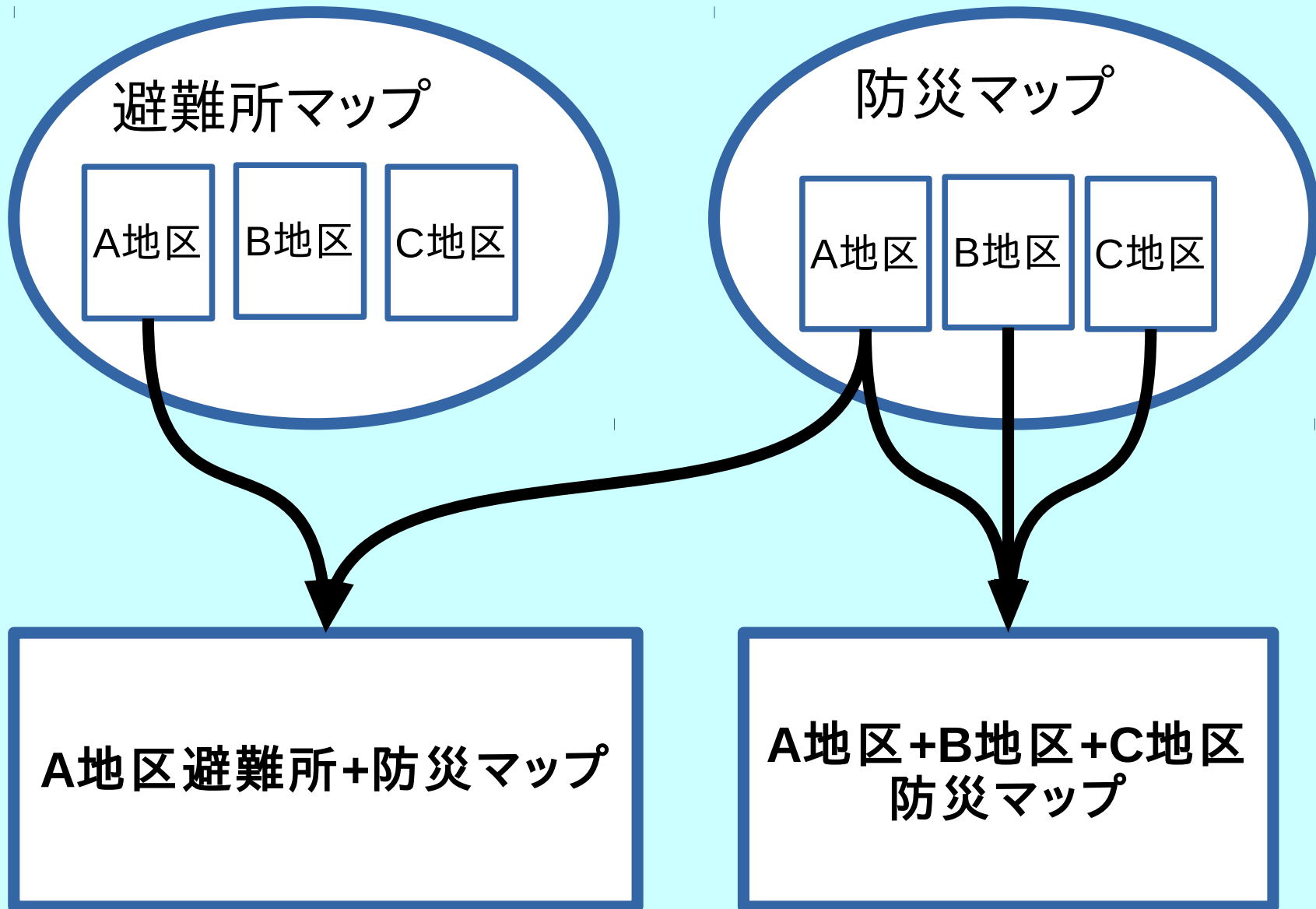
閲覧者属性に基づく動的レイヤ生成

大谷宏行

研究の背景

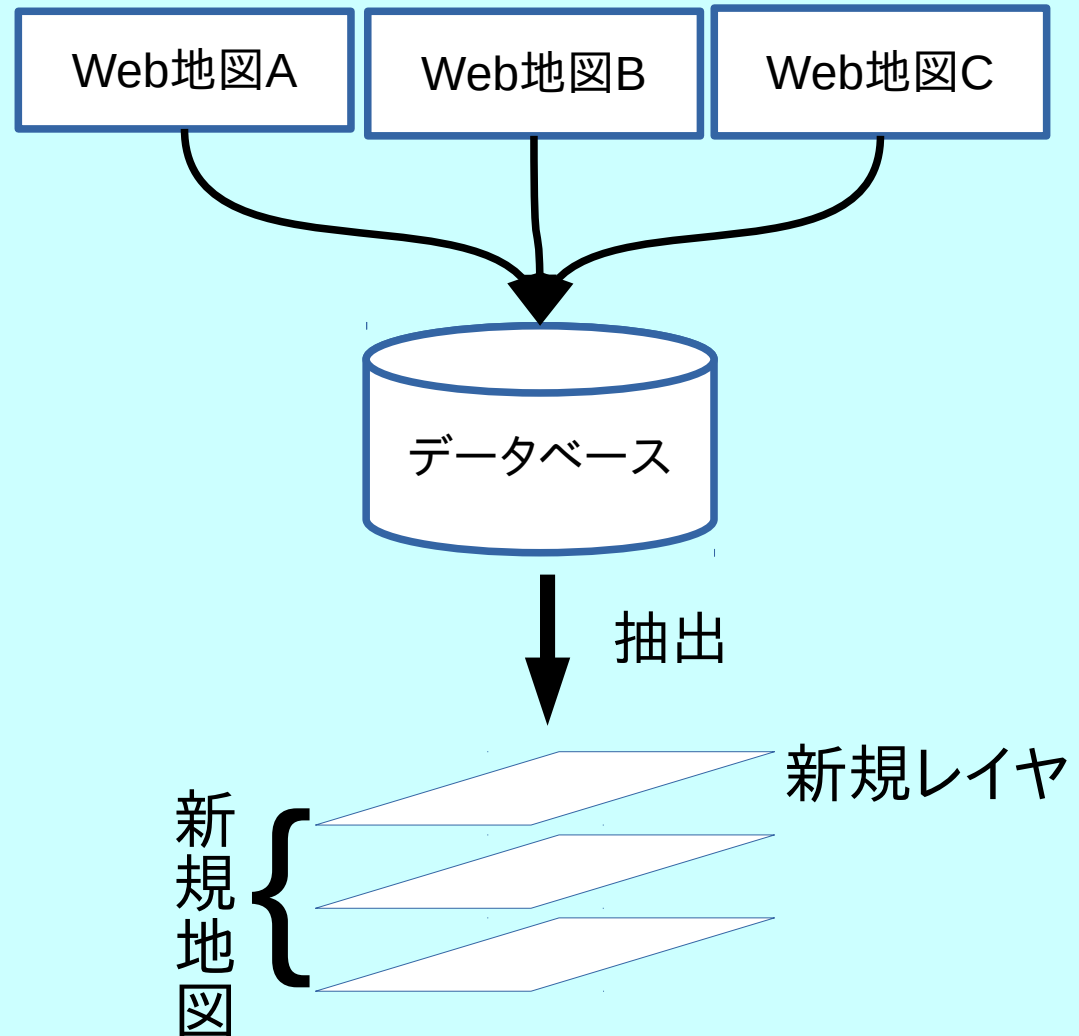
- 組織・目的別にWeb地図を作成している
(例) 防災マップ・避難所マップなど
- 複数のWeb地図を一つに統合することで
利便性が向上する

マップ統合の概念



Web地図の統合方法

- Web地図のマップデータをデータベースに入れる
- データベースから抽出しレイヤの作成
→ Web地図の統合



Web地図統合の問題点(1)

- 地図によってマップデータの形式が異なる
(例) GeoJSON, KML など
- マップデータの一部のみの利用ができない



マップデータの形式が崩れるため

Web地図統合の問題点(2)

- 個人情報を含む情報の管理
- オブジェクトの重複



個人情報を含む



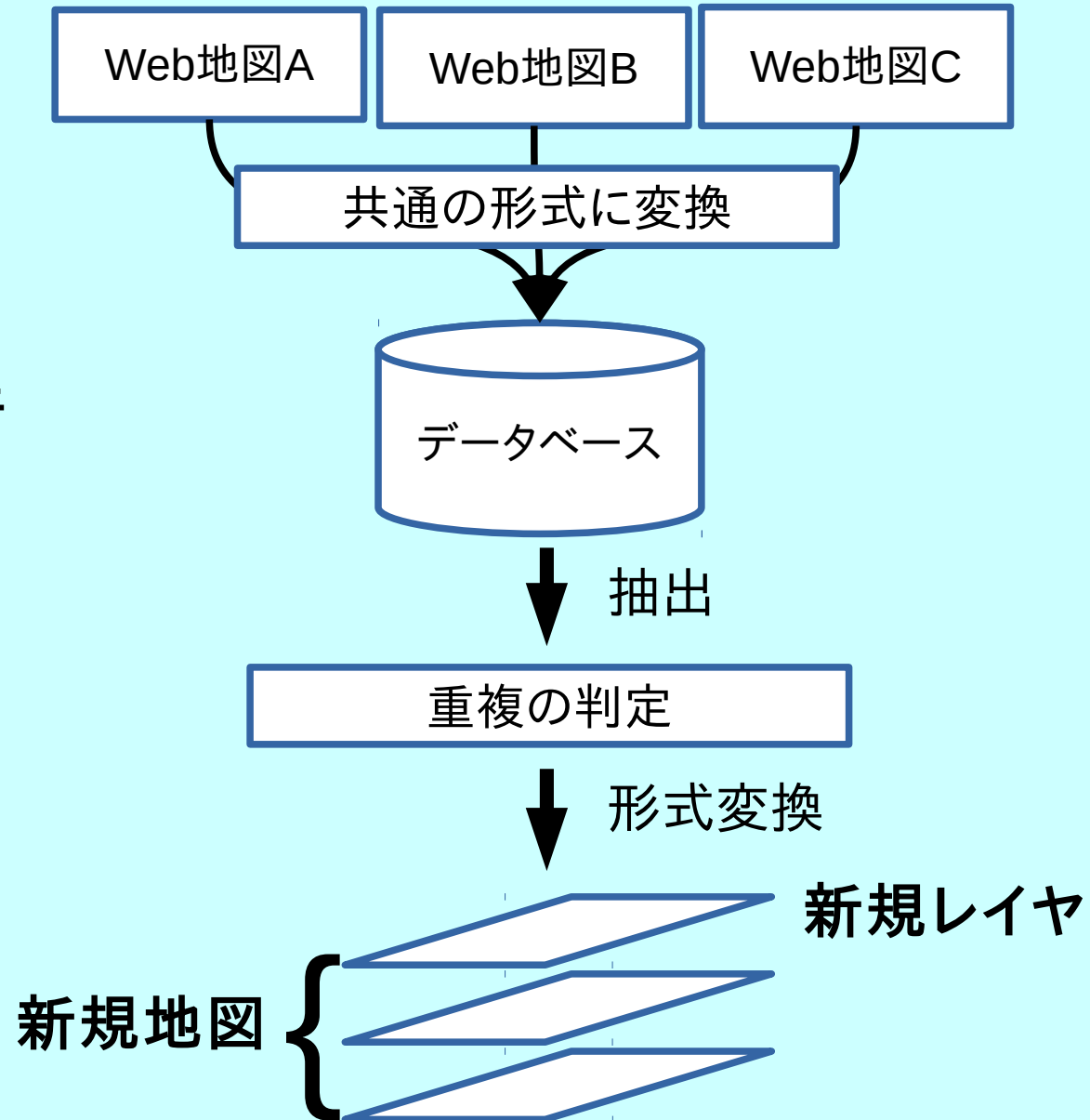
重複の発生

研究の目的

- マップデータを共通の形式に整理する
- 閲覧者属性にあったレイヤの作成
→ Web地図の統合

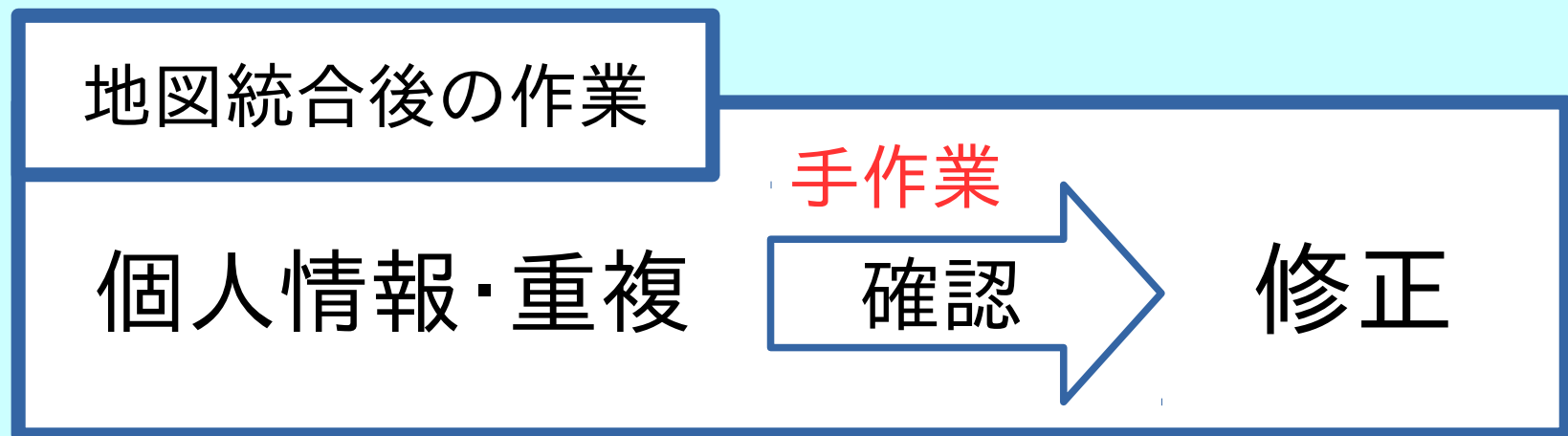
システムの概観

- マップデータを共通の形式に変換
- データベースで管理
→ 公開先の指定
- オブジェクトの重複を確認
→ 同じ内容オブジェクトの生成を防止



システムの利点

- 個人情報情報の記載を事前に決める
- 重複の確認



システムで処理

研究の内容

- データを取り出しやすい構造
- オブジェクトの重複を判定する方法

結論

- マップデータを管理することができる
- 既存のデータから新規レイヤが作成できる
→ Web地図の統合
- 閲覧者によって表示内容を変える